

研究課題名	大腿骨近位部骨折症例に対する受傷前のロコモティブシンドロームとフレイルの関係性
試料・情報の利用目的・ 利用方法（他機関へ提 供する場合その方法）	高齢者に多く発生し、近年増加している太ももの付け根の骨折（大腿骨近位部骨折）は骨折後の身体機能（筋力や歩行など）の回復の見込みは低く、介助を必要としない自立した生活を表す健康寿命も大きく影響を受けます。そのため未然に骨折を予防する対策が必要になります。骨折の原因は転倒が最も多く、筋力やバランス感覚など運動機能の低下が関係していると以前から報告されていました。しかし、近年は運動機能だけでなく、年齢を重ねることで起きる健康状態や栄養状態、認知機能など全身的な低下が関係していることが分かっています。この全身的な低下（弱さ）をフレイルと呼んでおり、骨折を予防するためには運動機能とフレイルの予防が大切になっています。しかし、大腿骨近位部骨折を受傷された方に対して骨折前の運動機能とフレイルの状態を評価した報告はありますが、運動機能とフレイルがどれだけ関係しているのか明らかにした報告はありません。そこで、我々はその関係性を明らかにし、骨折予防の一助を得たいと考えています。
研究対象者	2019 年 1 月から 2023 年 12 月にベルランド総合病院整形外科に大腿骨近位部骨折を受傷して入院し、下記の適格基準に該当した方①60 歳以上 ②転倒により骨折した ③骨折前は歩行可能 ④過去に反対側の大腿骨近位部骨折がない ⑤認知機能の低下がない（改訂長谷川式簡易知能評価（HDS-R）にて 21 点以上）
利用又は提供する試 料・情報の項目	診療の過程で得られた下記項目を本研究に使用させてください。 年齢、問診票の結果（ロコモ 25（運動機能の評価）、後期高齢者の質問票（フレイルの評価））、HDS-R（認知機能の評価）
研究予定期間	機関の長の実施許可日 ～ 2024 年 12 月 20 日
試料・情報の取得方法	通常診療の過程で得られます
試料・情報を利用する者 の範囲	この研究はベルランド総合病院理学療法室のみで行います
試料・情報の管理について 責任を有する者の氏名又 は機関の名称	ベルランド総合病院 理学療法室 田中暢一
研究に協力したくない場合	研究への試料・情報の利用についてご同意いただけない場合は下記お問い合わせ先までお申し出ください。不同意の場合でも診療に不利益になることはございません。
利益相反について	本研究に関連し開示すべき利益相反関係にある企業等はありません。
お問合せ先	ベルランド総合病院 理学療法室 氏名：田中 暢一 メールアドレス：nob_tanaka@seichokai.or.jp 〒599-8247 堺市中区東山 500-3 TEL：072-234-2001（代）